

第1回栗東市行政改革懇談会議事要約

令和2年11月16日（月）午後3時20分～
栗東市危機管理センター3階 大研修室

【出席者】

委員：新川委員、清水委員、大角委員、平田委員、森野委員、伊勢村委員、内記委員、
武村委員

事務局：副市長、教育長、市民政策部長、市民政策部理事、総務部長、健康福祉部長、
子ども青少年局長、環境経済部長、環境経済部理事、環境経済部政策監、
建設部長、教育部長、議会事務局長
元気創造政策課事務局担当

1. 開会

2. 委員の委嘱

（省略）

3. 座長・座長代理の選出について

（省略）

座長：新川委員

座長代理：清水委員

4. 協議事項

（1）傍聴に関する取扱いについて

（省略）

傍聴者数：0人

5. 審議事項

（1）第八次栗東市行政改革大綱の進捗状況について

《資料説明（事務局）》

（省略）

《質疑応答》

委員

最少の経費で最大の効果を上げるとするのは行政の基本であるが、これが上がっていないというのは由々しき問題である。上がっていない事業の説明をお願いします。

事務局

P10『交通環境の改善』については、昨年度に県内で幼稚園児の事故が発生したことを受けて安全点検を実施しているところであるが、安全確保のためには、ハード事業の展開もしていくべきというところであり、計画は立てているものの、関係機関等との調整などが必要であることから現時点ではできておらず、本年内では不可能という評価の中で上がっていないとしているところ。しかしながら、当然安全対策は必要であるので、交通安全プログラムを活用しながら今後は進めていきたいと考えている。

P5『健康を目指すスポーツの振興 競技スポーツの振興』については、コロナ禍により大勢が集まったのレクリエーションスポーツ大会の開催ができなかったため、上がっていないとしているところ。コロナがいつ収束するかは予測できないが、来年度は、違った形で対応できるようにしていきたい。

P5『地域に根ざした食育の推進』については、朝食摂取率 98%という目標に対しての評価をしており、効果性や生産性という観点でいうと、啓発費用や調査費用に対して数字が上がってないということから、上がっていないとしているところ。

P13『公園の整備・管理の推進 緑化の推進』については、自治会の高齢化に伴う公園の維持管理の手法について検討が必要になってきているものの、具体策をまだお示しできてないことから上がっていないとしているところ。

P6『地域コミュニティ推進事業』については、コロナ禍によりなかなか思うように事業ができていないことから、上がっていないとしているところ。

個別事業についてそれぞれ説明申し上げたが、基本的には、委員がおっしゃったように最小の経費で最大の効果を上げるというのが地方自治の本旨であり、今回のコロナ禍がどのように影響してこのような状態になったかというところではあるが、全ての事業で上がったとなるよう努力を続けて参りたい。

委員

『最小の経費で最大の効果を上げる』という文言に対して、上がってないということであれば問題になる。文言をもう少し検討してもらったほうがいいのではないかな。

事務局

法に定めのある最小の経費で最大の効果をあげるというところであるので、そうした部分のアウトプットについては、事業効果という側面が強いと思われるので、少し表現を検討させていただきたい。

委員

通学環境の改善に関して、毎年 PTA から通学路の点検についての要望が出ていると思うが、なかなか対処していただけていない点もあると思う。それは、順番があるからなのか、または、最小の経費で最大の効果ということで少しずつ対応をされているからなのか、理由をお聞きしたい。

事務局

法人立も含めた保育園、幼稚園の関係について、特に問題であるのは、小規模保育園では規定の中で園庭を必要としないということから、これは、園児の散歩に出かけるということであり、そういったことから昨年事故が発生したところである。色々なところからご意見をいただいているが、出来ること出来ないこともあり、協議をさせていただきながら出来るところから実施しているという状況である。

通学路は、ご存知いただいているように児童が最も安全に通学できるルートを学校や保護者が一緒になって選んでいただいているルートであり、その部分の安全対策というのは、他の道路に比べて特に必要ということで、予算配分と事業の実施については、道路管理者で配慮いただいているところである。ここ数年は、道路通学の安全対策プログラムということで、全危険箇所について優先して安全対策を順番にやっていくということで対応しているが、数が多くなかなか時間がかかっているというのが実情である。最近では、大津での痛ましい事故があり、幼稚園、保育園の園外保育についても対策をとということで取り組みすべきことが増えているということで、重点化してやっていきたい。

委員

今の話に関連するが、自治会でも地元の意見を聞いて要望事項として上げさせていただいているが、警察の協議がなかなか進まないという決まった回答をずっといただいている状況である。自治会長宛にも PTA から同様に要望が上がってくるので、自治会からも要望を上げさせていただいているものの、学校関係から上げていただき問題に対応していただくのが本筋だと思う。また、PTA の役員が毎年交代されていることから、交代後の役員の方が同じ項目を毎年出されている。

交通安全プログラムに関する会議もあるようだが、例えば、今年できない箇所は来年やるという結果を校長先生等にお伝えしているのかどうか。もう少し動いていないように感じる。出来れば、要望の実施できた点やすぐには実施できない点を、学校関係者には当然のこと、自治会長にも下ろしていただきたい。食い違いにより毎年同じ作業をしているというような実態があり、もう少し考えていただければと思う。

事務局

委員がおっしゃるように、PTA と地域と地元との情報共有、また、最近においては、厚労省所管のキッズゾーンや文化省所管のスクールゾーンに加え、不審者対策として危機管理の部署にも入っていただく必要が出てきている。内部でこうした関係課の調整を図りながら、できる限り今の取り組み状況を発信して情報共有を図る中で、より良い方向へ進めていけるよう取り組みをしているので、ご理解の程よろしくお願いしたい。

座長

進捗状況については、表記の問題があり、最小の経費で最大の効果という狙いが、個々の事業単位ではなかなか達成が難しいということが明らかになったということで、

これを見て、下半期、その先に向けてさらに精査をしていただき、本来の目的を達成できるように改めて取り組みを進めていただきたい。また、必要に応じて、目標や目的等を修正していかなければならないということもあろうかと思うので、対応をよろしく願いたい。

事務局におかれては、各委員のご意見を踏まえて、改善点等をしっかりと見直しをしていただき、今後の財政運営をよろしく願いたい。

(2) 今年度の行財政改革の取り組みについて

《資料説明（事務局）》

(省略)

《質疑応答》

委員

ふるさと納税の更なる推進とあるが、例年であればいくらであり、コロナの影響をどのように受けているのか。

事務局

昨年度決算では約 5,400 万円であり、今年度の予算としては 1 億円を掲げているものの、現時点においてはそこまで集まっていない。特に 12 月に多くの寄附が集まるような状況であるので、これからの PR 等の工夫で少しでも集めていきたいと考えている。ふるさと納税自体はコロナと直接関係があるわけではないものの、コロナ禍で多大な影響を受けている飲食店等に対し、ふるさと納税を活用して少しでも売り上げ増に繋げていただくため、従来であれば業種等にこだわりなく広く事業者を募集しているところを今年度は特に飲食店等に絞り個別の募集の案内をさせていただいた。

委員

今年のふるさと納税は、どのような方面にお金を充てていくのか。

委員

そもそもふるさと納税で収入よりも市外への流出の方が多く、寄附金に対する返礼品もあることから、返礼品分は必ず赤字にもなる。日本全体で言えば税収は減っており、地方を元気にするという事で総務省が制度を考えただけだが、栗東市はふるさと納税では赤字である。そこをしっかりと説明しないと、ふるさと納税で税収が増えたと解釈してしまう。ふるさと納税の更なる推進をすれば、赤字が増えるのではないかと。栗東市から出ていっている税収があることを皆がしっかりと理解した上で議論する必要がある。

先ほどの要望の話もそうだが、公安への要望は 1 自治連で 1 つという決まりがあり、複数の要望が出されても 1 つしか出せないで出したくても出せないという仕組みを

伝えないといけない。PTAの役員が交代されれば、この要望は去年に継続審議と言われていることから同じ要望は受け付けられないということをはっきり言わないと、要望ばかりが増えていくことになる。

栗東市では元気アップ応援券を実施いただいているが、竜王では、1万円で2万円分購入ができるプレミアム商品券をされている。プレミアム商品券の経済効果は元気アップ応援券よりも大きく、お店が少しでも黒字になれば税収が増えるわけなので、お金がある人のみが買えてしまうといった課題もあるとは思いますが、そういう議論も是非ともしてほしい。

事務局

まず、ふるさと納税で仮に5,000万円集まったとしても、関連する事務や返礼品に関する経費が5割まで認められているので、実額は2,500万円ということになる。併せて、ご指摘いただいた通り、栗東市民が市外にふるさと納税をしていってしまう部分については、当然栗東市に税収として入ってこないことになるので、その部分については、いわゆる負け越しの状態である。現在、一次産業が主たる産業である自治体にどちらかという光が当たっている状況であると思うが、我々としても稼ぐ努力をして参りたい。

地域振興券については、新しい生活様式の定着、或いは、安全安心な環境でご家族の方が例えば外食をしていただくというようなところに着目し、どういった制度設計をしていこうかというような議論の中で出てきたものであるが、今後の新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、必要に応じて経済を刺激するためのプレミアム振興券といったようなものも、議論してまいりたい。

座長

行財政改革の着手は継続的にやっていかざるを得ないので、各委員のご意見を踏まえしっかりと行財政改革を進めていただきたい。

単に費用対効果を追及するという以上に、このような時代であることから収入を新たに開拓していくということも重要だということであるが、本日色々ご意見をいただいている。ぜひ、市民の皆様方からの様々なご要望も踏まえ、委員各位においても、新しいアイデアや意見をよろしくお願いする。

6. その他

本日出し切れていない意見等あれば、ご意見シートにご記入いただき、ファックスもしくはメールにて提出をお願いする。

7. 閉会

以上